

㊦ (小計 62点)

問一 (12点) 学者は失われていく本を現代に長くとどめ、また短期間で手軽に傑作に触れたいと願う人々の期待にも応えるために、本をあらすじにし、速読法を与えて新しく作り直しているのだということ。

問二 (10点) 音楽はその他の行動と両立できるが、読書は他の日常的行為と同時にできないという違いがあるということ。

問三 (12点) 苦しんで時間をかけて読み終えると、素晴らしい発見があるので、難解な本に挑戦してほしいということ。

問四 (16点) 第九を早送りで聴くとたくさん聴くことができるが音楽が台無しになると同じように、本をあらすじと速読で読むと、たくさんの本に触れることはできても、本が持つ本来の魅力を味わえないということを学者に伝えようとしたから。

問五 (12点) 林太郎の話聞いて、本来の読書の楽しさを思い出し、これまでの本を切り刻むという行動をやめて、ゆっくり本を読みたいというおだやかな気持ちになっている。

㊧ (小計 28点)

問一 (16点) 牛を解体しはじめた頃は対象に圧倒されるが、三年も経つと修練によって幾つもの型を身につける。そしてだいに意識しなくても靱帯や腱などにぶつからないほど牛刀を使いこなせるようになるという過程。

問二 (12点) 茶道の型を徹底的に身につけ、型自体を忘れた境地まで行くことで、どのような人にも喜んでもらえるお茶の接待ができるようになること。

㊨ (小計 10点)

- (2点×5) (1) 奮起
(3) 勝算
(5) 品行方正
- (2) 炭鉱
(4) 補う

【出典】

- ㊦ 夏川草介『本を守ろうとする猫の話』
㊧ 玄侑宗久『ないがままで生きる』